

# 擬情語の形態的分類の試み

櫻井由美

## <要旨>

感情表現のなかでも日常よく使われる擬情語は通常形式動詞「スル」をつけて使われる。擬情語と「スル」との間に「ト」を介在して使われるか否かという問題に関して、赤羽根(1993)では擬情語が表しているのが「話者の心理」か「観察対象者側の心理」かという点で考えられていたが、本稿では形態的に「スル」と結びつく際に①必ず「ト」を必要とする類、②「ト」を必要としない類、③「ト」がつくときとつかないときがある類、に分類し、さらに②については、(i)「スル」以外の動詞と結びつきにくい類、と(ii)「スル」以外の動詞と結びつくときには「ト」を必要とする類、に下位分類した。

[キーワード] 擬情語、話者の心理、観察対象者側の心理、「スル」、「トスル」

## 0. はじめに

擬態語のなかには人の感情を表しているとされる擬情語がある。(注1) いわゆる、イライラスル・ウキウキスル・ハラハラスル、などであるが、日常的にはこの擬情語を使った感情表現が多く見られる。そしてこの擬情語は、感情形容詞と同じように主語の人称に制限があることが知られている。(注2) 本稿ではエッセイ、随筆、対談集、新聞、脚本のなかで用いられた擬情語の用例を分析し、擬情語に形式動詞「スル」がつくか「トスル」がつくかということで擬情語の分類を試みた。なお、本稿では、擬情語として主に浅野(1978)のなかで「擬情語」を明記されているものに若干のものを加えて扱った。

## 1. 先行研究

擬情語に形式動詞「スル」や「トスル」のついた形と人称の関わりに関する先行研究には赤羽根(1993)がある。そこでは擬情語を「話者の心理を表す」(ウズウズ・ゾクゾク・ドキドキなど)と、「観察対象者の心理を表す」(イジ

イジ・オズオズ・クヨクヨなど) とに分類している。以下に赤羽根から「まとめ」(pp. 39-40) を引用してみる。

1. 「擬情語+スル」が一人称を主語とし話者自身の心理を表すものとなるのは「ウズウズ、ゾクゾク、ドキドキ、ハラハラ、ヒヤヒヤ、ワクワク」などの擬情語である。三人称を主語とすることはできない。
2. 1 の擬情語は事態を過去化や習慣化した場合には、主語が一人称ではあっても話者の心理の直接表出とはならず、客観化された状態として説明・報告される。
3. 「イジイジ、ウジウジ、オズオズ、オドオド、オロオロ、クヨクヨ」などの擬情語は、一人称を主語として話者の心理を直接に表出するのではなく、話者が捉えた観察対象側の心理を表している。それゆえ、事態を過去化したり習慣化した客観的なものにする必要が生じる。
4. 擬情語と「スル」の間に「ト」を介在させると、「外貌的に状態を表す」感が強まるため、1 の場合には不適格となり、2 や3 の場合に適格性が生じることになる。

すなわち赤羽根では、擬情語と形式動詞「スル」との間に「ト」が介在するかしないかは、「話者の心理」を表すものかそれとも「観察対象側の心理」を表すものかというグループの違いによると、考えている。しかし、「話者の心理」を表している擬情語と「スル」との間に本当に「ト」を介在させると不適格性を生じるのだろうか。また、「観察対象側の心理」を表す擬情語には本当に「ト」を介在させると適格性が生じるのだろうか。

本稿では擬情語を形態的に①「ートスル」型、②「スル」型、③「(ト)スル」型の三つに分け、さらに①②に関しては形式動詞「スル」以外の動詞と結びついたときに「ト」はどうなるか、を調べた。そして赤羽根のいう「話者の心理」を表すものと「観察対象者側の心理」を表すものという二分類が「ト」の有無と関連があることなのかということの考察を試みた。なお本稿では擬情語の意味上の分類は赤羽根の「話者の心理」を表すものと「観察対象者側の心理」を表すものという二分類に従うものとする。

## 2. ートスル型

擬情語のなかには、常に「ト」と伴って「スル」と結びつくものがある。

- 1) 私はそこまでひどくはない、と、ホッとした。 (愛こそ)
- 2) 私ははげではないがひとごとながらムカッとした。 (しあわせ関係)

常に「ト」を伴う擬情語には以下のようなものがある。

### ①一音節に促音がついたもの

カットスル      ギョットスル      ホットスル      ムットスル  
ハットスル

### ②二音節の語基に促音のついたもの

スカットスル      ドキットスル      ビクットスル      ムカットスル  
カーットスル

### ③二音節の語基に撥音がついたもの

ギクントスル      キョントントスル      ドキントスル      ビクントスル

### ④二音節の語基に「リ」がついたもの

ギクリトスル      ドキリトスル

以上の①～④の擬情語は、「ト」を伴わずに使われることはめったにない。  
(注3)そして「スル」以外の他の動詞を修飾するときにも通常「ト」を伴って使われる。語基に促音がついたものに関しては「ト」を伴わないと発音がしにくいということが、常に「ト」を伴うことの理由として考えられるであろう。しかし、③や④については「ト」が常について用いられる、という事実があるものの、その理由ははっきりわからない。①②の中には「ビクビクスル」や「ムカムカスル」のようにくり返して用いると「ト」が必要でなくなるものがあるというのも興味深い。

では「話者の心理」を直接表現するか、「観察対象者側の心理」を表現しているかという点では、どうであろうか。

- 3) 恐る恐る入って、怪物がいるという覗き窓を覗いてみたら、ギョッ!!  
自分の顔が、鏡に映っていた。 (えんぴつ)
- 4) 「んもう、イライラする!」私はT氏に向かって叫んだ。 (ウテナ)
- 5) 「あー、うれしいね」 「本当だね、わくわくするね」 (生活)

3)のような使われ方は「ト」を必然的に必要としない他の擬情語にもよくある使われ方である。ここで3)の「ギョッ」は「話者の心理」を表しているように見えるが、4)や5)と違い「トスル」という言い切りの形で「話者の心理」を表現することはできない。「ギョッ」は話者が心のなかで感じた感情ではあるが、それは普通、その感情を抱いているまさにその瞬間に口に出されて他人に伝えられることはない。

- 6) 母「あのね、(と小さくいい、あいているドアを閉め) お母さん、ほんと  
は、昼間、ベッドの下の本、見ちゃったの」  
息子「(ドキンとする)」 (早春)
- 7) A「そういうことを課長はいうからなあ」  
B「やりにくい(と合の手)」  
課長「なにをいうか(目の前に立つ男にギクリとする)」 (早春)
- 8) せっかく人が一心不乱に作ってやってるのに、とカッとしますが、言われてみればその通り、ウイナーがときによって揚げシュウマイかエビフライになったりするだけで、ホント、ワンパターンなのでした。  
(えんぴつ)
- 9) 外見がこの通りだから、清楚な女性が清楚にしているよりも、しおらしく見えるかもしれない。男性はドキリとするわけだ。 (交差点)

6)、7)のようにドラマの脚本のなかでは、「トスル」の形で登場人物のその瞬間の心の様子を表すことがある。しかし通常「トスル」という形では、8)のように、「(ソナコトイワレト) カッとしますが」や、9)のように「男性(トイウモノ)は(タイテイソウイウトキニハ)ドキリとするわけだ」という習慣性や当然だという感じを読み手に与える。すなわちそこでは事態が客観的にとらえられているのである。赤羽根のいう「観察対象者側の心理」を表している。

- 10) 金遣いが荒いから嫁に行けぬとよく陰口を叩かれる私だが、結構ケチなところがある。海外のファクシミリの高さにはいつもムとするのだ。

(ウフフ)

- 11) こういった山口君の目は、学校でみた時の陰しいそれではなく、兄貴のようにやさしく見えた。それに表情もなんとなく和やかだ。僕はホとした。

(トコロテン)

10)、11) は「スル」といういいきりの形で「話者の心理」を表せることから「話者の心理」を表わす類のものだが、11) は過去形をとることで一種の客観化が行われている。これら「ト」を必ず伴って使われる擬情語の多くは、心の瞬間的な動きを表すものであるから、継続的な状態を表す「テイル」はつきにくいものが多い。(注4)

- 12) \*ハットシテイル。  
\*ドキットシテイル。  
\*ビクントシテイタ。

### 3. -スル型

- 13) 気にしないようにしてはいても、視線に入ってきていらいらします。  
(朝日新聞 '94.8.5)  
14) 調べに対し「親にしかられてむしゃくしゃして火をつけた」と話しているという。  
(朝日新聞 '94.8.9)  
15) もちろん外見的には鏡を見るたびにウンザリしますよ。(バァバ)

13) ~15) にあるような「イライラ、ムシャクシャ、ウンザリ」などの大多数の擬情語は「スル」と結びついたときに「ト」を伴わないものが多い。しかし、形式動詞「スル」以外の他の動詞と結びついたときには、「スル」のときには「ト」をとらなくても、「ト」をとることが多いものもある。そこで、ここでは「『スル』以外の動詞と結びつきにくい類」と「『スル』以外の動詞と結びつくと『ト』をとる類」とに分けて考えてみたい。(「スル」以外の動詞と組み合わされて「ト」を伴わないものはデータのなかに現れなかった)

### 3.1 「スル」以外の動詞とは結びつきにくいもの

「話者の心理」を表す類のなかで3.1に属するものは、「ワクワク、ムシャクシャ、ウンザリ、ウズウズ、ムカムカ」などである。これらの擬情語は、一人称を主語とし、話者の発話時点での内的感情を「スル」という言い切りの形で直接表現することができる。

- 16) 「大体、カメラマンなら、なにとってもいいの？ 権利でもあるみたい。い。ムカムカするわ」 (早春)
- 17) その土地の人と同じ空気を吸っている、ただそれだけでわくわくします。(バァバ)

三人称の感情を表現するには、「テイル」をつけたり、それが話者の判断であることを明示したりしなければいけない。

- 18) からだ洗いは、ぼくの18番だ。その名も、秘技「にゅるにゅる」。コードモもこれをやってほしくて、うずうずしている。(バァ)
- 19) 「……“鉄のモンマルトル”事件についても話したいんですが、それは順番を待っている田所が話したくてうずうずしているようですから彼にゆずります。」 (ことば)

「観察対象者側の心理」を表す擬情語で3.1に属するものには「ムズムズ、ビクビク、クヨクヨ、カリカリ、オタオタ」などがある。

- 20) 家の中では、口ばかりでなにもしない。なにかあるとオタオタして、日和見で都合のいい事ばかりを言う。(この人)
- 21) 僕は絵本を読むのが恥ずかしい。つかえやしないかとびくびくします。(おなか)
- 22) 「小学校の頃はS子さんの腕力が強かったから、男の子なんて、みんなビクビクしてたしね……そうだねえ……高校へ行ってから、男を虐めたといえ、やっぱり通学の電車の中だわねえ」 (しあわせ関係)

赤羽根(1993)が「まとめ3」で指摘しているように、このような擬情語は時の副詞「イツモ」と共起するか、「スル」の過去形「シタ」がついて「話者自

身なり観察対象とする第三者の心的状態が表層化した態度」と表している。20)と21)は文の中に文字として現れてはいないが、「イツモ」という意味を持っていることが感じられる。とくに21)の用例は子育てエッセーからとったものであるが、子育てをするときに、親が子供に絵本を読んでやるという行為は、日常普通によく見られるものである。読み手のほうも一般常識としてそのことを知っているので、文のもつ背景から読み手は「イツモ」を感じとるのであろう。

### 3.2 「スル」以外の動詞と結びつく「ト」をとるもの

これらの擬情語も「話者の心理」を表すものと「観察対象者側の心理」を表すものとがある。前者は「イライラ、ガックリ、ウキウキ」などであり、後者は「ムラムラ、オズオズ、カッカ、イソイソ、ウカウカ」などである。

- 23) 結局、この二つが拮抗しあってビーフシチューを不味くしてしまった。  
ああ、なんだかイライラする。(ウフフ)
- 24) だから友人のX氏に「東京ディズニーランドに行かないか」と誘われたときは、イチオウ「エエッー!？」とためらってみせたものの、内心ウキウキ。(ウテナ)
- 25) 女の子に、「あなたのお部屋が見たい」と言われても、男は、大きく、二通りに分かれる。「じゃあ、今度の日曜日に遊びにおいでよ!」と何のためらいもなく、むしろ、いそいそするように、OKするタイプと、  
.... (わがまま)
- 26) 行楽気分でウカウカしていると、大自然の手強いシッベ返しを食って「ただけど涙が出ちゃう、男の子だモン」と鮎原こずえのようにコートの中で泣くハメに陥るのである。(ええかいわ)

これら3.2の擬情語は形式動詞「スル」以外の動詞と共に起することも多い。(もちろんその動詞の語彙的意味と擬情語の意味とが共に起せる場合に限られが)そして他の動詞と一緒に使われるときは、「ト」を伴って使われる。

- 27) 車を止めるとすぐ彼女はトイレに一目散に走っていった。「アーバン・トイレだったけど、ダメだった」しばらくして戻ってきて、彼女はがっくりと肩を落としていた。(生活)

- 28) 危なっかしいことをしているときとかこちらがイライラと怒ってしまうとき、いちいちもってまわった「ですます」調に訳してるひまがないのである。  
(朝日新聞 '94.8.8)
- 29) 何日かたって、会社の女の子が僕のところへきてオズオズと尋ねた。冷蔵庫の中のタニシが腐ってしまって異臭を放っているのを捨ててもよいか、とききにきたのだ。  
(西方)
- 30) 怒りの感情がムラムラと立ちのぼり、「何をどうせいちゃうんじゃ!アレはやめろーっ」と声を荒らげなくなったこともあります。  
(朝日新聞 '94.8.6)

#### 4. - (ト) スル型

擬情語が「スル」と結びつくときに間に「ト」を介在させたり、させなかったりするものがある。

- 31) あったかいところで四、五日のんびりしよう… トいうことでサイパンにやって来たのだが、これほどまでも新婚さんで埋め尽くされているとは思ってもいなかった。  
(交差点)
- 32) 何もしないで、のんびりとすることは、ある意味では、懸命に何かをすることと同程度に難しいことである。  
(交差点)
- 33) 二人は同じ心を抱きながらも、それを言葉に出せないまま夜風の中でぼんやりしていた。  
(交差点)
- 34) 「何か考え事をしているのなら、声を掛けては失礼なのですが……」とその紳士は礼儀正しく、ぼんやりとしている私に小声で尋ねた。  
(交差点)
- 35) そういうコドモになんだかんだと話しかけている自分に気がついたときは、模範的な母親になった気分で、うつくしい母性愛にわれながらうっとりいたします。  
(おっばい)
- 36) うっとりとした、チャスラフスカの体操でさえ、当時のフィルムを見ると、何だ、こりゃ、という感じ。  
(生活)

これら「ノンビリ、ボンヤリ、ウットリ」は「(ト) スル」の形で話者のその時点での感情を直接表現できない点から考えると「話者の心理」を表すもので

はなく、「観察対象者側の心理」を表すものと考えられる。ではなぜ、「ト」がつく場合とつかない場合があるのであろうか。

37)a. ノンビリした性格の人だよ。

b. ??ノンビリトした性格の人だよ。

38)a. ? 朝から晩まで椅子に座ってボンヤリしている。

b. 朝から晩まで椅子に座ってボンヤリトしている。

動詞「スル」と組み合わせるときに「ト」を伴うか否かについては、楊(1993)には「……全体として同じ意味に取られるので、特に問題にならないだろう。」(p. 104)とあるが、37)38)の作例を見てみると微妙ながらやはり何か違いを感じる。「あなたのお母さんってどんな人?」と聞かれて答えやすいのは、37)a)の方である。また、ある一定の時間の過ごし方、どのように時間を過ごすかその様子ということになると、38)b)の方が38)a)よりも正確に表現している。すなわち、擬情語と動詞「スル」とが直接組み合わせるときには、性格・性質といった、時間に左右されることのない継続的な状態を表しているのに対し、擬情語と動詞「スル」との間に「ト」を伴うと、それは、ある一定の時間的な限定をもったなかでの継続的な様子を表すと、いうことができよう。

## 5. まとめ

本稿で明らかになったことを以下にまとめてみる。

①赤羽根(1993)での擬情語と動詞「スル」との間に「ト」が介在するか否かという問題の扱いは、その擬情語が「話者の心理」を表すものならば「ト」はつかないが、「観察対象者側の心理」を表すものならば「ト」がつくという二者択一的な扱いであったが、実際に用例を収集し分類をしてみると、そのような単純なものではないことが分かった。そこで本稿では形態的に「トスル」型、「スル」型、「-(ト)スル」型に分類した。

②「トスル」型は「ト」を必ず必要とするもので、例えば「カットスル、ホットスル、ドキットスル、ギクントスル、ドキリスル」などである。これには「話者の心理」を表すものと「観察対象者側の心理」を表すものと両方が含まれる。

③「スル」型は動詞「スル」と組み合わせるときに「ト」が普通介在しな

いもので、これには「話者の心理を表す類」と「観察対象者側の心理を表す類」の両者の擬情語が含まれる。そして、「スル」以外の動詞と結びつくか否かで、(i)「スル」以外の動詞と結びつきにくいもの(ワクワク、ムカムカ、ビクビク、カリカリなど)と、(ii)「スル」以外の動詞と結びつくと「ト」をとるもの(イライラ、ウキウキ、オズオズ、イソイソなど)とに下位分類できる。

④「－(ト)スル」型は「観察対象者側の心理」を表すものであるが、擬情語が「スル」と直接結びつくときには、性格・性質といった時間的限定のないなかでの継続的な状態を表し、擬情語と「スル」との間に「ト」を介在させるときには、ある幅をもった時間的限定のなかでの様子を表している。

ただし今回の調査では、テンスやアスペクトのことにまで深く触れることができなかった。そしてまた、擬情語が動詞「スル」以外のほかの動詞と組み合わせられるときにも副詞として用いられやすいものと、「スル」を伴った動詞の形としてしか用いられにくいものがあることは分かったが、それ以上深く考察できなかった。これらは今後の課題としたい。

#### <注>

1. 擬情語とは、金田一(1978)によると、「擬態語のなかで、人間の心の状態を表すようなもの」とされ、例として、「一人でくよくよ悩んでいた／さっきからいらいらしていた」があがっている。
2. 赤羽根(1993)、西尾(1988)
3. 用例の3)や24)といったように、擬情語に「ト」も「スル」もまた他の動詞も何もつけないで、文が終わるような例はいくつか見られる。
4. 瞬間的な心の動きを表しているものでも、「スル」「シテイル」の対立があるものもある。

◎「だって話したくないんだもん」

　　といってブイと横をむく。と思ったら突然、

　　「お父さんのお仕事場に電話して」

　　と受話器を持ち上げた。そうかやっぱり悪いと思ったんだなと私はほっ

とする。 (愛こそ)

@その時は、“全く頼りにならない父親!!”と腹立たしかったが、あとで  
思えば、あれでよかったのだとホッとしている。 (えんびつ)

詳しくは西尾(1988)を参照。

#### <主要参考文献>

- 赤羽根義章(1993) 「擬情語の意味機能 —— 『擬情語+する、している』を  
めぐって —— 」 (『字大語論究』5 '94.7)
- 浅野鶴子 (1978) 『擬音語・擬態語辞典』 (角川小辞典 12)
- 金田一春彦(1978) 「擬音語・擬態語概説」 (浅野『擬音語・擬態語辞典』)
- 田守育啓 (1993) 「日本語オノマトペの統語範疇」  
(田守育啓他編『オノマトピア 擬音・擬態語の楽園』勁草書房)
- 中北美千子(1991) 「擬音語・擬態語と形式動詞『する』の結合について」  
(『国文目白』第31号)
- 西尾寅弥 (1988) 『現代語彙の研究』 (明治書院)
- 宮島達夫 (1983) 「状態副詞と陳述」(渡辺実編『副用言の研究』明治書院)
- 宮地 裕 (1978) 「擬音語・擬態語の形態論小考」 (『国語学』115)
- 楊 淑雲 (1993) 「『擬態語+する/なる』の形式について」  
(『東北大学文学部日本語学科論集』第3号)

#### <用例>

|         |        |              |         |
|---------|--------|--------------|---------|
| (愛こそ)   | 柴門ふみ   | 「愛こそがすべて」    | 角川文庫    |
| (生き物)   | さくらももこ | 「ももこのいきもの図鑑」 | マガジンハウス |
| (いい話)   | 文芸春秋編  | 「たのしい話いい話」   | 文芸文庫    |
| (ウテナ)   | 中野翠    | 「ウテナさん祝電です」  | 新潮文庫    |
| (ウフフ)   | 林真理子   | 「ウフフのお話」     | 文春文庫    |
| (ええかいわ) | 原田宗典   | 「日常ええかい話」    | 集英社文庫   |

|          |           |                     |       |
|----------|-----------|---------------------|-------|
| (えんぴつ)   | みつはしちかこ   | 「えんぴつコロリン」          | 角川文庫  |
| (おっばい)   | 伊藤比呂美     | 「良いおっばい悪いおっばい」      | 集英社文庫 |
| (おなか)    | 伊藤比呂美     | 「おなかほっぺおしり」         | 集英社文庫 |
| (交差点)    | 神津カンナ     | 「男と女の交差点」           | 集英社文庫 |
| (ことば)    | 清水義範      | 「ことばの国」             | 集英社文庫 |
| (この人)    | 野田秀樹      | 「この人をほめよ」           | 新潮文庫  |
| (早春)     | 山田太一      | 「早春スケッチブック」         | 新潮文庫  |
| (遭遇)     | 新井素子      | 「新井素子の未知との遭遇」       | 講談社文庫 |
| (しあわせ関係) | 佐藤愛子      | 「男と女のしあわせ関係」        | 集英社文庫 |
| (生活)     | 群ようこ      | 「日常生活」              | 新潮文庫  |
| (西方)     | 中島らも      | 「西方冗土」              | 集英社文庫 |
| (トコロテン)  | 沢野ひとし     | 「トコロテンの夏」           | 角川文庫  |
| (パパ)     | 伊藤比呂美・西成彦 | 「パパはごきげんななめ」        | 集英社文庫 |
| (バァバ)    | 黒柳朝       | 「チョッちゃん 私の心は花咲かバァバ」 | 角川文庫  |
| (わがまま)   | 秋元康       | 「みーんな、わがまま」         | 角川文庫  |

### <資料>

浅野(1978)の辞書で擬情語と扱われているもの(49語)

イジイジ/イソイソ/イライラ/ウカウカ/ウキウキ/ウジウジ/ウズウズ/  
ウッカリ/ウットリ/ウンザリ/オズオズ/オタオタ/オチオチ/カッカ/ガッ  
クリ/カリカリ/ギクッ/ギョッ/キョトン/クサクサ/クシャクシャ/クヨ  
クヨ/ゲンナリ/サバサバ/シンミリ/スカッ/スッキリ/ゾッコン/ソワソ  
ワ/ドキッ/ノーノー/ノンビリ/ハッ/ハラハラ/ビクッ/ビクビク/ヒシ  
/ヒヤヒヤ/ホクホク/ホッ/ボンヤリ/ムカムカ/ムシャクシャ/ムシャム  
シャ/ムズムズ/ムッ/ムラムラ/ヤキモキ/ワクワク/

本稿で加えたもの

カッ/カーッ/ギクリ/ギクン/ドキリ/ドキン/ムカッ/

(お茶の水女子大学日本言語文化専攻修士2年)